

西宮 えびす

平成20年
新春号



十日えびす

だんじり
交流記

諸国探訪
須門神社

末社神明神社 提燈奉納のご案内

平成十九年九月十二日滞りなく竣工し、装いを新たに神明神社。同事業に併せまして、ご神前に奉納する提燈を募集いたしております。お申込は社務所にて受け付けております。

◆一灯一万二千六百円
(裏面には奉納者の芳名が入ります)

【神明神社由緒】

御祭神は、豊受比女大神様・稲荷大神様。西宮市戸田町の大阪奉行所西宮勤番所内に鎮座していましたが、明治六年(西暦八七三年)に当社境内に遷座。この時稲荷大神様を合祀。現在では諸



願成就・町内安全の神様「お稲荷さん」として多くの崇敬を受けています。

正月・十日えびす「献備講」のご案内

当社では毎年全国各地から参拝者がお越しになる正月・十日えびすに合わせて、ご商売をされている方々より多くの献上のお品をご奉納頂いております。

本年より献上のお品を奉納される篤志家の方を中心に「西宮神社献備講社」を新たに結成致すことになりました。

正月十日えびす期間中、お名前を記した木札と奉納のお品をお供え致しますとともに、正月(日・三・日)・十日えびす(九日・十日)の期間ご参拝の際には昇殿にてご祈祷を奉仕いたします。

献備講社のご入講、お問い合わせは西宮神社講務課までお願い致します。



編集室から

今号で諸国探訪も十回を迎えました。誌面を通じて全国津々浦々の信仰の光を窺い知ることができ、勉強をさせて頂いております。「方今号」から始まりました「えびすQ&A」。早速三件のご質問に返答申し上げます。その他にもいくつかの質問を頂戴しておりましたが、誌面の都合上割愛いたしました事をお詫び申し上げます。

地球温暖化といえども十一月の半ばを過ぎると肌寒くなり私自身体調管理に気を遣う日々が続いております。今年度も百名を超える女性から年末年始のアルバイトの応募を頂きました。例年の事ではありませんが、寒い中、笑顔で奉仕をされる奉仕者の姿を見るこちらの方が引き締まる思いでございます。



年末年始巫女研修会の様子

えびす

NISHINOMIYA EBISU
平成20年新春号

西宮えびす 平成20年新春号(通巻第28号) 平成19年12月1日 発行
発行/西宮神社 TEL:06-631-7600-0614 兵庫県西宮市社家町1-17 電話06-631-0611 FAX:06-631-0610

編集/総務課広報 印刷/小西印刷所

年頭にあたり、謹みて皇室の弥栄を壽ぎ奉りますとともに、氏子、各講員そして崇敬者皆様方の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

元日の夜にみる夢は「初夢」と称して、人々はその夜にどのような夢をみるかで一年を占ってきました。誰しも良き年でありたいわけですから、良い夢を見たい、そうするにはと考えられたのが枕の下に七福神の絵を敷くということです。そうすると七人の福神の合力により縁起のよい初夢が見られると信じられてきました。さてこの七福神には、それぞれの福徳が備わ

っております。寿老人・寿命、大黒天、毘沙門天・威光、布袋・大量、そしてえびすさまには「清廉」の徳が備わっております。

また次のような言い伝えもあります。えびすさまが西宮にお着きになられたとき、西宮には道薫坊という方がおられ、この方が幼いえびすさまを人形であやしこの人形によって善と悪の区別を教えられたというお話です。即ち善に就いて正直に生きるといふ教えです。この「清廉」と「正直」がまさにえびすさまのみこころなのです。釣竿一本を持たれて大漁をもたらされることも、「清廉・正直」から発せられるご神徳なのです。

十一月になると商店では「誓文弘」が行われ

ます。全国的には「えびす講」といわれているこの慣わしは、一年間に得た利益をお客様に還元するとともに、現代的に言えば職業倫理の原点に立ち返る、まさにえびすさまの大前で「正直」に立ち返ることなのです。

神さまのみこころを、代々この内に受け継いできたのが日本人です。この年の曇りをとり除いて、更にこころを磨くとそこには神さまから受け継いできた大切な「正直」のこころが現れます。「誓文祭」「えびす講」の神事を通して、このこころに立ち返ることがえびす大神さまのみこころに叶うことなのです。

不正直、不誠実なことが目立つ昨今ですが、商売の上で時にはこのようなことも起り得るでしょう。しかし古来人々は毎年のえびす講において、えびす大神様の恵みに感謝するとともに、一年を振り返り自省しました。そして自省したことは来るべき年には必ず活かし、これを積み重ねて家訓、商売道徳が生まれてきたのです。

新しき年を迎え、ひとりひとりがえびすさまの「清廉」「正直」のみこころにたち、行動するところが肝要なのではないでしょうか。

えびす大神さまのご神徳を厚くいただき、良き年でありませう。こころよりお祈り申し上げます。

須門神社

〔鎮座地〕新潟県魚沼市田中

須門神社宮司 仲丸宣弘 氏

「西宮講社社用係を拝命して」

―社用係の継承―

当社の記録によれば、明治末から二十三代宮司伊頭雄、二十四代伊津岐、二十五代宣重として二十六代の私と四代にわたって継承されて今日に至っております。

―西宮御神影頒布の実態―

私は四十五社を兼務担当しておりますが当地には、西宮神社、えびす様をご祭神とする神社はありません。しかし、当社の社務所神殿に西宮えびす様、大國主神、五穀成就田の神がお祀りされており、信仰を集めております。氏子の各家庭には、神宮大麻等の神札を祀る神棚と、西宮様(三神影)を祀る三休用神棚の二基が設置されており、毎年新しいお札がお祀りされています。

頒布時期は十一月一日と定められていました。当地では七月遅れの年中行事が残っており、十二月にお神送り(神無月)十二月一日に



社務所神殿
ご神影頒布会場



福神「福神のおわりに」の舞の掛軸(絵)が
この舞の掛軸(絵)が
魚沼市無形文化財に
西宮神社の舞の掛軸(絵)が
授与される



西宮ご神影頒布
の様子

落センター等を拝借し、地区の集落区長、氏子総代等が奉仕して神宮大麻と西宮様(三神影)セットで頒布しております。

頒布担当区域は、魚沼市全域、南魚沼市、小千谷市、川口町の部となっており、頒布数

は万體以上を数えております。

―ご本社西宮神社からのご指導と連携―
西宮神社からは、宮司様をはじめ神職の皆様が、過去何回も当地をご訪問になり、親しくご指導いただいたことが、懐かしく思います。

また平成十五年十月、県内配札関係者懇談会が新潟市で開催され、吉井宮司様以下神職と地元配札者が和やかに連携を深め教化活動の推進を誓いました。お正月にはご本社の御神酒をいただき、氏子に授与し喜ばれています。

先年吉井良隆宮司様より「笑門来福」と大きくご揮毫賜わり、神前に献額して西宮神社のご神徳宣揚につとめております。

西宮授与品の掛

軸(絵)が福の神として好評で、新築家庭にお贈りしたり、神楽「福神の舞」の宝授与の当たり「くじ」で贈呈したりして、氏子崇敬者の教化と信仰心の高揚に微力を捧げています。



吉井良隆宮司の書を
神前にかざって
氏子の方々に拝観していただきました

1月5日(土)~1月31日(木) 11~18時 火・水定休
YEBESSAN—今井祝雄〈分身の術〉展
 アトリ工風姿花伝/662-0974西宮市杜家町1-68
 TEL 0798-36-8845 (1F)・8846 (2F)



今井祝雄が2002年から始めたく分身の術〉シリーズは、レディメイド=既製品から分かれたかけらのそれぞれが同数の分身像を再生・創造するというもの。匿名的な量産品の一つの分散したそれぞれが唯一のオリジナルに逆転。補助、

お多福、ダルマ、招き猫、信楽狸につづく最新作“えべっさん”を主役に各々10数体以上からなる6点と版画3点を展示。西宮の十日戎にあわせ、みなさまに“福”のかけらをお裾分けしたいと思います。

新しき年にあたり、西宮神社神域に接するアトリ工風姿花伝におきまして、YEBESSAN—今井祝雄〈分身の術〉展が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

西宮神社は、ここ西宮だけではなく、全国に数多く鎮座しています。十日町(新潟)、桐生(群馬)、中津川(岐阜)、佐賀など、まさにえびすさまの分身が各地に祀られているのです。これを神道では「分霊」と申します。

はるか昔より、えびすさまの尊い御神徳を敬仰する人々は、遠い道のりを西宮まで何日も歩きつづけ、西宮神社でえびすさまのご分霊を受けました。そして再び来た道をありがたい「御神霊」を大切に持ち帰り、丁寧に祀りました。その地でえびすさまは篤い信仰を受けられ、新たなご神威を発揮されて大きな福を人々にお授けになりました。

このたびのYEBESSAN—今井祝雄〈分身の術〉展は、宗教と芸術あるいは形あるものと無いものとの違いはありますが、いづれにも「再生」という力が働いています。これによって新しいものに息吹が加えられ、生き生きと力あるもの、同じであって同じでないものが生まれるのです。

YEBESSAN—今井祝雄〈分身の術〉展を大勢の方々をご覧になられますことを祈り申し上げます。

西宮神社 宮司 吉井 良昭



いまい・のりお

1946年生まれ。もと具体美術協会会員。第10回シェル美術賞一等賞受賞。内外の美術展に出品多数。パブリックアートや著書「都市のアートスケープ」ほか。成安造形大教授。

西宮のえべっさん”芸術文化巡り“しませんか？

毎年、1月10日に「福男」となる称号を得る開門行事があることは全国的にもたいへん有名です。また、境内にある百太夫社は、人形操りの神社として百太夫神をお祀りしています。西宮の傀儡師は「えびすかき」と称し、全国を廻ってえびす様をかたどった人形を操って神社の神札を配り、その御神徳を広めました。江戸時代に入って初めて三味線・浄瑠璃といっしょに人形を操ったのも西宮の人であるといわれており、人形浄瑠璃と西宮は深い縁で結ばれています。2008年の新年に、西宮神社に因んだ芸術文化巡りをしてみませんか？

十日えびす

毎年百万人を超える参拝者が訪れる十日えびす。今年も福の神様えびす様にお参り頂き、平成二十年がよりよい年となりますようご祈念申し上げます。

※年末年始の予定は別掲の予定表をご覧ください。



左から、二番福 奥野始さん、一番福 条良太さん(二年連続)、三番福 東井重樹さん

「平成十九年の福男」

「福男法被ができました」

従来福男には、お米やお酒・焼酎などをお渡ししていましたが、平成二十年より福男の賞品に法被が加わりました。福男の称号にふさわしい賑々しいデザインで福岡染工店のご協力により作製しました。



「淡路人形浄瑠璃一座も福男を称えました」

〈新春えびす舞いが各地で上演されます〉
 ・1月5日 午前11時 百太夫神社祭、午後 神戸元町大丸百貨店・大阪枚方近鉄百貨店
 ・1月7日 午後 阪神野田駅・阪神梅田駅
 ・1月10日 午前9時~午後8時 西宮神社会館

■ 関連事業

●12月5日(水)~1月14日(月)
 企画展「堀内冷灸びすコレクション—「良い夢見ましょ」~宝船~」
 宝船は宝を積んだ舟などの絵を一枚の紙に刷ったもので、よい初夢を見ることを願って枕の下に敷かれました。今回は、さまざまな宝船をご紹介します。
 白鹿記念酒造博物館
 (火休/年末年始12/30~1/3休)
 一般400円 中・小学生200円
 お問合せ:0798-33-0008(当館)
 ●1月5日(土) 午前11時から
 「百太夫神社祭」徳島人形浄瑠璃 西宮神社
 えびす様の信仰を全国に広めた人形遣い達がその祖神として崇めた百太夫神をお慰めするお祭り。祭典後ご神前において「阿波木偶箱廻しを復活する会」奉仕によるえびす舞を奉納します。

●1月9日(水)
 「宵えびす能 能楽新春コンサート」
 兵庫県立文化芸術センター小ホール
 ①14:30 「三番三」・「養老」・「石橋」他
 ②19:00 「高砂」・「道成寺」・「船弁慶」他
 (昼夜プログラムが違います)
 A席3500円 B席2500円 昼夜通し6000円
 お問合せ:当チケットオフィス
 0798-68-0255
 主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
 ●1月9日(水)~11日(金)
 「くぐつ人形芝居」 西宮中央商店街各所
 ●1月1日(火)~1月11日(金)
 「逆さ門松」 西宮中央商店街

●2月3日(日) 午後2時開演
 文楽探検PART11
 ~知って楽しい、知的文楽探検セミナー~
 文楽に遊ぶ
 西宮市プレラホール
 1800円(当日300円増)
 「舞台写真を見ながら “文楽よもやま話”」
 出演 河原久雄(写真家)
 吉田和生(人形浄瑠璃文楽座人形遣い)
 上演「壱阪観音霊験記」山の段よりお里のくどき(テープ使用)
 お問合せ:(財)西宮市文化振興財団
 0798-33-3111
 主催:西宮市、西宮市教育委員会、(財)西宮市文化振興財団



●2月17日(日) 14:00開演
 「淡路人形浄瑠璃 十段目尼ヶ崎の段」
 兵庫県立芸術文化センター中ホール
 3000円 こども1200円(中学生以下)
 トーク「淡路の人形浄瑠璃」
 出演:吉井良昭(西宮神社宮司)、
 菊川兼男(郷土史家)
 聞き手=河内厚郎
 上演『絵本大功記』十段目尼ヶ崎の段
 お問合せ:当チケットオフィス
 0798-68-0255
 主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

えびす瓦版

時の西宮神社社用日誌を
ひもとく「えびす瓦版」
今号は
享保八年（一七二三）です。



- | | | | | | | | |
|----|------|----|---------|----|--------|----|----------|
| 神主 | 吉井宮内 | 祝部 | 大森太郎左衛門 | 祝部 | 田村伊左衛門 | 神子 | 源兵衛 |
| 社家 | 東向左膳 | | 大森忠左衛門 | | 廣瀬丈右衛門 | | 長左衛門 |
| | | | 大森次郎兵衛 | | 堀江権大夫 | | 願人 辻重左衛門 |

西宮・南宮両社お屋根葺き替え

廣田社地替は難航

昨年三月に初めて「夷尊像東本社前出現」のご開帳を執り行い、この折の散銭や御初尾など社納銀を以つて、昨年中に表門、仮殿そして末社築地のそれぞれの屋根の修繕を行った。

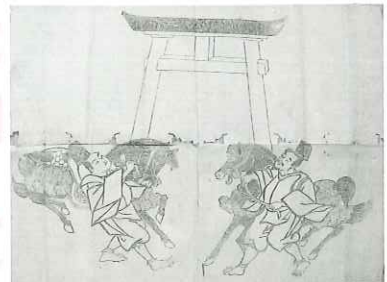
続いて本年三月には、①西宮本社の屋根修葺 ②南宮社の屋根を瓦葺きに変更する ③廣田社地替え（社殿大破また東北側の川切れの心配のため）この三点の願書を尼崎寺社方へ持参したところ、西宮南宮の件は大坂へ願書を出すようにと指示があり、廣田の件は道筋敷地絵図や村庄屋年寄願書も添えなければならぬので今回は見送るようにと仰せられた。

数日後大坂御番所の鈴木飛騨守様の御前に罷り出、

寺社御奉行松平相模守様より三像絵形を下される



田の神(現在)



神馬(江戸期)



えびす(現在)

元禄十五年八月に三像の絵形：夷像・神馬（白張二人神馬ヲ鳥居引込処）・田神（冠装束右鎌左稲鋤左右二稲鳥居狐）が下されたが、その後享保元年頃板木を焼失した。このため改めて絵形をお願いしたところ、このたび下された。

産所と人形あやつり

十月 産所に住む八郎兵衛がやつてきて、「産所村は困窮なので近年お願いして人形あやつりをしている。だが産所の村で行っているの何かと入用もかかり、助成にはならない。西宮社境内で春に興行を行いたい」と申す。

これに対して神主は「境内で興行すれば社中も賑わう。四郎三郎兵衛より村へ地代銀を出したらよからう。社中で行っても地代は社中ではとらない。村中の助成になるようにするので、村中一同で願うならば庄屋年寄にまず相談するように」と伝える。

祈雨の祈願成就

七月十一日 河内国濱良郡深野村北新田の百姓が六甲山に招雨の登山を行い、御神前に御初穂として青銅一貫文を社納した。同二十日には同地天王寺屋宇兵衛らが参り、早速大雨が降りありがたく存ずると、御礼として六甲山へ登りまた当社へ参詣し一貫文を社納する。

殿様、鷹野で社中へ

四月二十七日 藩主松平遠江守様が鷹野にお出かけになられ、当社の児の宮前までお出でになられる。暫しの間、鷹に小さいぎをあわせその後お帰りになられた。九月六日には兵庫からお城へお帰りの節、境内水茶屋へお寄りになられ、鳥目一貫文を茶屋へ遣わされる。先ず以つて御機嫌よくお立ちになられた。

剣珠と龍明珠

大坂から紺屋彦左兵衛が一家で参詣。剣珠拝観を願うので拝見させる。御初尾として銀五匁を社納する。三月三日節句には拝殿へ例の通り龍明珠出現。剣珠とは廣田社の重宝で、南宮社で祀られていた。龍明珠とは延宝六年（1678）に江戸住人より奉納されたもので、由来書によると古昔泉州堺の人が渡唐の節に得た明玉とのことである。

神主面会記録

江戸にて
藤野平太夫：去年の役銭を持参。老年に及び組頭役を勤めたいと申すので差免する。
金川・菊川伊勢倅：三像（えびす・田の神・神馬札）の絵形を見せる。
鳩谷善兵衛：役銭社納
武蔵与野町・藤野権之進：絵形を見る。且方場所へ本社の免状を所持しない紛らわしい者が像札を配札しているの差止めも承引しない。免状をこの者に下され、その上で且方場所を決めてもらいたいと申す。

西宮にて

越後国刈羽郡北条村から堀越左近の倅石京と申す者が、中西平次衛門の免證文を持参する。所の名主の添書、印形もある。本来ならば毎年の免状切替であるが、遠国のため五年に二度の切替とし、五年分の役銭を社納する。

永井外記 在江戸支配役人に申し付ける

奥羽、関東、信越筋の社納役銭集めは、そもそもは本社願人頭の中西氏の所管であったが、正徳四年に失脚後は、下野・黒羽在の山木勘解由（中西氏手代）がこれを行っていた。しかし不埒なこと出来につきこのたび役儀取上げとなり、後任に永井外記を任じ寺社奉行所へ次の通り届出た。

口上之覚
江戸石町三丁目清兵衛店
永井外記

右外記儀関東筋撰州西宮支配下ノ者共社納役銭頭候へハ例年十二月御當地浅草市場ニをるて夷像売り候支配等仕役人ニ此度申付候尤西宮より頭辻重左衛門并社役人彦人相添隔年尔罷下り候へハ出府不仕候年ハ支配下不埒ニ相成候ニ付右外記支配役儀相勤させ申万御用之儀も御座候ハ、此者ニ被為仰付可被下候

為御届以書付申上候 以上
享保八年卯二月七日

撰州西宮廣田両社神主
吉井宮内印
御奉行所御役人申

永井外記には、新たに寺社奉行松平相模守より下された三像の絵形の板木を預ける。外記は寺社奉行所に印鑑を届けるとともに、早速関東筋の役銭集めに順廻した。

平成十九年十二月から二十年五月の行事ご案内

前号で予告申し上げましたとおり、今号では平成十九年十二月から平成二十年五月までの祭典・行事をご案内いたします。

※社務・天候等により一部予定が変更となる場合があります。

12月31日 「除夜祭」

今年一年の無事を感謝すると共に、新年の除災招福を祈願します。祭典の後は、拝殿前にて福火が灯されます。

◆お焚き上げのご案内

当社では年始の節目に当り、拝殿前にて福火の点火を行っております。一年間お守り下さったお札・お守りに感謝を込めてご焼納頂き、新しいお札・お守りを受けましょう。



●福火点灯日時

12月31日	午後6時30分～翌午後5時
1月2日	午前8時～午後5時
1月3日	午前8時～午後5時
1月15日	午前7時30分～午後5時
2月3日	午後5時30分～午後8時

1月2日 「奉射事始祭」

新年の開運

招福を願い、西宮弓道連盟奉仕による弓の引き始めが行われます。本殿での祭典に続き、厄除けの鏑矢を嚆矢に次々に矢が射られます。



1月5日 「百太夫神社祭」

えびす様のご神徳を全国に広めた傀儡の祖、百太夫の神様をお慰めます。祭典後にご神前において「阿波木偶箱廻しを復活する会」奉仕によりえびす舞を奉納します。



12月22日 10時	冬至祭
23日 10時	天長祭
27日 10時	煤払祭
31日 15時	大祓式(住吉神社)
31日 16時	大祓式(西宮神社)
31日 18時	除夜祭(西宮神社)
31日 20時	除夜祭(住吉神社)
1月1日 6時	歳旦祭(西宮神社)
1日 7時	歳旦祭(住吉神社)
2日 10時	奉射事始祭
3日 9時30分	元始祭
5日 11時	百太夫神社祭
7日 10時	昭和天皇遥拜式
9日 14時	招福大鯛奉納式
9日 16時	有馬温泉献湯式
10日 4時	十日えびす宵宮祭
11日	残り福
14日 11時	成人祭
15日 10時	十日えびす報賽祭
2月3日 9時	若戎会餅つき
3日 10時	節分祭
11日 10時	紀元祭
12日 11時	神明神社祭
14日 10時	初住吉祭
17日 11時	祈年祭
3月21日 10時	春分の日遥拜式
4月2日 11時	松尾神社祭
3日 11時	梅宮神社祭
8日 11時	稲荷神社祭
9日 11時	宇迦之御魂神社祭
10日 11時	金刀比羅神社さくら祭
25日 10時	献茶式
29日 10時	昭和の日祭
5月1日 10時30分	醇友会太々神楽祭
2日 14時	八馬家太々神楽祭
3日 9時30分	憲法記念祭
3日 11時	大阪第一招福組太々神楽祭
4日 11時	日供講社太々神楽祭
5日 9時30分	子供の日祭
5日 13時30分	西宮太々神楽祭
6日 9時	六甲山神社祭
6日 11時	諸国講社太々神楽祭
10日 11時	本えびす講社太々神楽祭
15日 11時	大国主西神社祭



有馬温泉献湯式

※赤字は境外末社住吉神社(西宮市西波止町4-4)の行事です
※行事の日時は社務・天候等により変更の場合があります。事前に西宮神社社務所(0798-33-0321)・住吉神社社務所(0798-32-0230)にお問い合わせ下さい。

1月8日 「招福大まぐろ奉納式」

十日えびすを目前に控えた二月八日、毎年二百キロを超える大マグロがご神前に奉納されます(平成十九年は体長二五五cm、重量一九五キロ)。



1月9日・11日 「十日えびす」

詳細は十日えびすのページに掲載。

2月3日 「若戎会餅つき」

氏子青年会若戎会の奉仕により、約二百キロのもち米をつき上げ、六千個の丸もちに仕上げます。もち当日ぜんざいにして参拝者に振



2月12日 「神明神社祭」

毎年二月初午の日に斎行致します(平成二十年は二月十二日)。末社祭典の後、もち撒きを行います。



5月1日・10日 「太々神楽祭」

五月一日から十日まで、えびす様をお慰める為全国から崇敬者が集い、神楽を奉納します。特に五月五日の「西宮太々神楽祭」では、バザーや物産店も出店する他、子供の日に囚んでお子様にも楽しんで頂ける催しも行なわれ、境内を賑わせます。



だんじり交流記

西宮まつりに賑わいを添えるだんじり。西宮神社氏子青年若戎会の豪快な練り回しで、宮っ子の注目を集めます。今年度の西宮まつりでも九月二十一日から二十三日にかけて市内各所を巡行致しました。今回は若戎会と老人福祉施設「ホームメヌエツト」との交流をご紹介します。

若戎会のだんじりで活気を

ホームメヌエツトとだんじりとの交流が始まったのは、昨年の平成十八年のこと。今年度で二回目を数えます。事の提案者である清水清三郎さんは、高齢者の福祉施設や障害者施設の運営に携わっておられます。施設にいらっしやるお年寄りは寂しがっている方が多く、どうにかして喜ばせてあげたいと常々考えておられ、清水さんの奥さんも時折話し相手に施設へと通っておられました。

西宮まつりの実行委員長でもいらっしやるお立場から、「若戎会のだんじりを見てもらえば、お年寄りにも喜んでもらえるのでは。」と考えた清水さんは、若戎会の会長森裕史さんに相談したところ、快くホームメヌエツトへの巡行を引き受けてくださり交流が始まりました。

平成十九年九月二十二日の夜、浜脇町内での餅まきの後、ホームメヌエツトへと巡行をします。立ち寄ってみると大勢のお年寄りの方が、玄関前に待っていましたと言わんばかりに拍手で出迎えてくれました。お年寄りの中にはお祭り好きの方が多く、昔を思い出してか、だんじりを見ると眼を輝かせていました。

浜脇町での餅まきに集まった人も、だんじりを追ってそのままホームメヌエツトへと立ち寄っていただき、まさにだんじりが地区の人とホームメヌエツトの高齢者の心を繋ぐお祭りとなりました。

「これが私の仕事だから。」そういう清水さんに笑顔があふれていました。



若戎会会長 森裕史さん

清水さんからお話を頂き、ぜひともお伺いしました。浜脇町での餅まきを終わり、ホームメヌエツトへむかうと、車椅子に乗ったお年寄りが施設の前にずらっと並んでおられとても驚きました。だんじりの練り回しを見ているお年寄りの顔がいきいきしてくるのを見るとおもわず涙が出てきました。

またホームメヌエツトの職員の方からもすごくいい刺激になったとの感想を頂きとてもうれしく思っています。

その後知ったのですが、若戎会の会員に、「おばあちゃんが入っている」会員もおり、ますますご縁を感じています。来年はホームメヌエツトの敷地が拡大されるそうで、より盛大にもっと喜んでもらえるよう考えています。



えびすトピック

●料亭主人のご子孫 えびす像を奉納

この由緒ある旅館の子孫が今回えびす像を奉納頂いた宮里圭子さんです。

宮里さんのご先祖の営んだ「ひょうたん屋」は、大坂の今橋築地、料亭・旅館が立ち並ぶ高級街にあり、幕末の志士で浪士組(後の新撰組)を結成した清河八郎も宿泊したことが旅行記『西遊草』に見えています。



三代目の主人、帯屋源兵衛さんは自ら「瓢遊」と号すほどひょうたんを愛され、身の回りの道具から果ては使用人の半纏にいたるまでひょうたんのデザインがほどこされておられ、その情熱に驚か

れます。

現在、蒐集品の多くは博物館に寄贈されておられますが、この度は大切にお祀りされました。由緒ある商家にふさわしい堂々とした焼き物のえびす様で、親しみやすいえびす顔の裏にもどつしりとした貴神の風格がただよっています。

なお、清河八郎は同手記にて、当西宮神社にも立ち寄った事が記されています。

●白鹿記念酒造博物館の 企画展のご案内

白鹿記念酒造博物館にて毎年恒例の堀内冷さんのえびすコレクションの企画展が開催されます。

今年度のテーマは宝船。宝をたくさん積んだ舟の絵で、よい初夢がみられるよう枕の裏に敷かれました。社寺で頒布されたものから個人がつくったものまでさまざまな「宝船」が展示されます。

詳しくは白鹿記念酒造博物館(西宮市鞍掛町八十二丁目079833・0008)までお問合せ下さい。

◆期間/平成十九年十一月五日～平成二十年一月十四日(定休火曜)

※十二月三十日～一月三日は休館

◆開館時間/午前十時～午後五時(入館は午後四時三十分まで)

◆入館料/一般 四〇〇円
中・小生 二〇〇円



●神明神社・梅宮神社 整備事業報告

去る九月に末社神明神社の社殿及び鳥居の修復事業が、おかげをもちまして無事完遂できましたことをここに報告申し上げます。神明神社社殿は平成七年の震災や風雨の影響もあり朱の剥落等はなほだしい状態にありました。そこで神慮を御慰めするため奉賛事業をお呼びかけしましたところ、大勢の方からご奉賛金をいただきました。崇敬者の皆様ご参列のなか、新しい社殿の大前で神明神社整備奉告祭を斎行。その後直会。

また翌十月、境内末社梅宮神社の社殿整備が無事整いました。梅宮神社はお酒の神様、酒解神(さかとけのかみ)をお祀りしている神社で赤門外に鎮守してることから、定刻になると境内全ての門を閉める西宮神社にあつて唯一時間を気にすることなく参拝できる神社です。此度の整備で社殿と銅板葺き屋根を麗しく修復いたしました。

此度の両社の整備事業で皆様の厚い崇敬の念に触れることができ、事業完遂のことと併せまして心より御礼申し上げます。

えびすQA

前号より告知を致しましたえびすQ&A。今号では三名の方のご質問にお答えします。

Q えびすさんの笹を置く場所はどこがいいですか？(匿名希望の男性)

A 福笹はお札と同じく目線より高い、きれいな場所にお祭りして下さい。また、南向きか東向きにお祀り下さい。

Q 身内に不幸があった時、鳥居をくぐってはいけないと聞きました。どれくらいの期間ですか？

A 一般的に五十日を過ぎればお参りして頂いて差し支えはございません。

Q 福男選びはくじ引きに当たらないと参加できないのですか？(匿名希望の男性)

A くじ引きは門の前に並ぶ車の出来る人を抽選しますので、門の後ろから参加する事はできます。ただ、転びやすい服装・泥酔状態での参加は大きな危険を伴いますので遠慮下さい。

当コーナーでは、引き続き皆様のご質問・ご要望をお待ちしております。境内にあるなど、どんなご用件でも結構です。

◎ご質問は郵便にて、〒662-0974 兵庫県西宮市社家町一十七 西宮神社総務課 広報係までお願い致します。

※誌面で紹介する際、匿名をご希望の方はその旨ご記入下さい。

※今回の紙面は社会福祉法人一羊会理事長の清水清三郎さんと、若戎会会長森裕史さんのお話をもとにしております。